

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島状況雑件 要人往来（沖縄要人来日、訪米）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-28 キーワード (Ja): 松岡琉球政府行政主席, 長嶺琉球政府立法院議長, 椎名外務大臣, 屋良琉球政府行政主席, 星琉球政府立法院議長, 愛知外務大臣, 訪米報告, 訪米及びハワイ訪問報告 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43314">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43314</a>

松岡主席  
訪米(中止)

40  
六、  
14

要處理  
要研究至急

課  
段  
科  
河  
内  
資  
藤  
有  
馬  
渡  
大  
中  
後



GA-4

外務省

北米局長

参事官

北米課長

第2963号

昭和40年5月19日

外務大臣殿

在  
米  
武  
内  
大  
使

琉球政府松岡大使の訪米中止

5月25日及び28日までワシントン滞在を爲め訪日

向の訪米を行なう予定の琉球政府松岡大使

その後 政務省化の理由に二点を中山、左山

ハリイ在短期間活動するに比しての問題と云ふ、右

1=7月2日福島県担当官は館員会計と同生の  
もともと実施問題

3半ば私的旅行で、米政府の招待があるため  
(本件は8月2日付便函中に記入)

2は右、ワシントンの白壁毛一連の儀式修飾の外  
半個々分私的の説明延長の問題

2=右が二点である。政治的効果を何と云ふか

いわゆる次がけだ。従つて3回の中止も済む

浮く理由も右の如きを参考して逐段に之を行な御令

考玉。

2

GA-4

外務省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

大政事外官  
務務房  
次次  
臣官審長  
(2)  
人電管計  
議文会厚  
國資  
參  
調  
北東  
長總中西  
(北  
米  
長化  
中參南旅  
移  
總住  
歐  
參英  
長西東  
近  
ア  
長  
經  
調國米ア  
二カ  
參商歐  
統ラ  
論國近  
一通ス  
經  
參經賠償  
協  
政技  
長國  
經  
參  
長  
條規  
國參經科軍  
長政社專  
情  
參內  
長道外  
文文  
長一二

稿番号(印) / 1947/1

主 管

67年4月28日21時00分 発  
67年4月29日11時45分 着  
ワシントン  
外務大臣殿  
武内(大使)総領事臨時代理

オキナワ問題に関する米議会筋の見方(マサオカ内話)

第1147号 暗

マイクマサオカはマジオカリゆうきゅう政府出席訪米に因  
連しオキナワ問題について上下両院軍事委員会の感想を別  
個に聞いた結果なりとして28日チバに語つたところ次の  
通りの趣。若干ひ感的過ぎると思われるも何ち御参考まで。

各議員は口をそろえて自分らは同首席に対し海外の貴  
賓としてのれいをつくして応待し。オキナワ問題について  
の本当の考え方をろごつに話した者はかい無であつたが、同  
主席がこれにより議会の支持を得たと誤解したおそれな  
いとせず、と述べていた。中でもジャンクソン上院議員(民  
主。ワシントン州)は、同主席との接しよぐの結果考え方  
を変えた議員は一人もいなかつたろう。特にプライス法改正  
案については依然としてしゅうへん的(PERI PHE  
BAL)問題視しており。大統領ないし国防長官が強く工  
作しない限り上院議員は本気になら抗いのではないかと言  
つていたが、プライス下院議員もこのことを残念ながら事  
実であると認めていた。イノウエ上院議員と話してみた自

外務省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

分(マサオカ)の感じでは上院セフオング議員がイノウエ  
議員の出発をくじき法案提出の主導権をにぎつたことは  
セフオング議員が共和党であることと相まって逆効果となる危険  
があると思う。

これら軍事委員はさすがにオキナワについての問題点  
は良く知つており、ある意味では両院の外務委員をしのいで  
いるが、一般にオキナワが日米間の最大の問題となりつ  
つあるとのライシャワー一流の議論にはかい疑的であり、マ  
サオカ主席以外の日。りゆう訪米者から何度も同じことを  
聞かされるにつれて却つて何か日本政府の意識的宣伝を聞

かされているような反感を覚えつつあるようである。(イ  
ノウエ議員はこの意味でマサオカ主席の直後にオオハマ氏  
が訪問するが、必ずしも良いタイミングではないかも知れ  
ず、と心配していた)ドミニック上院議員(共和。コロラ  
ド)はどうも米日両政府とも何かさつ覺を起しているので  
はないか。米政府側は両国の友好関係を依持し日米国内の  
反米気運を防ぐため議会はオキナワ援助資金を増額すべき  
であると言ひ、日本側は放つておくと日米関係に悪いから  
、米国はオキナワを返すべきであると言つているが、どう  
も議会を説得するには程とおいと述べていた。これは単純  
に過ぎる議論だが議員の考え方の一はんを示していると思  
う。

3. いずれにせよベトナム戦争が行われている現在軍事委

外務省

卷之三

44

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管委員その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

員でオキナワ基地を手放すことはおろか、現在の米軍による自由使用体制を変更しようということを考える者は先ずいないのではないかとの印象を受けた。事実各委員はべつ手と貢献の問題にはつ頭しており。この点は政府も同様（例えばヴァンス国防次官は先日自分に対し「オキナワ以外にかくらてもし寧があるま」とじよう諱まじりに述べていた。）である。なお右に掲述したヤクソン議員はダラシンシン大統領が乗り出さない限り議会も政府もオキナワについて現状維持以外のことを考へるはずはないと言つてゐた。（/3）